

科目名	応用測定工作実習							年度	2026
英語科目名	Applied Measurement Work Practice							学期	前期
学科・学年	一級自動車整備科 3年次	必/選	必	時間数	24	単位数	0	種別※	実習+実技
担当教員	坪裕光、大瀧昇利、村木亮治、丸岡慎、非常勤講師	教員の実務経験		有	実務経験の職種		一級自動車整備士		
【科目の目的】 整備支援機器、高精度計測機器、金属加工機器の実践的な取り扱い方法の理解									
【科目の概要】 エンジン出力・駆動力やセンサの特性等の測定作業、手作業・旋盤・フライス盤・溶接などによる金属加工作業を実習します。									
【到達目標】 2年次に習得した測定、加工の知識・技術を更に発展し、3年次講義科目での教科書知識の確認として、様々なメーカーの実習車に搭載されている電子制御式エンジン、サスペンションの測定と、工作機械の取り扱いについて、常に安全とチームワーク、主体性を意識して取り組むこと、また、4年次科目でもあるインターン実習に向けて、基本的な作業の反復を行うことなどを目標とする。									
【授業の注意点】 学生の主体的な協働コミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や授業態度には厳しく対応する。授業に出席するだけではなく、社会への移行を前提とした受講マナーで参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。社会の動きや自動車整備業界の状況などを概説するので、各々情報を収集し起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。また出席確認時に遅刻の場合4時間の欠席となる。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	応用測定作業について積極的に学び、発展的な解釈ができる	応用測定作業について積極的に学び、理解することができる	応用測定作業について学び、理解することができる	応用測定作業について理解できない	応用測定作業について理解する姿勢がない				
到達目標 B	応用工作作業について積極的に学び、発展的な解釈ができる	応用工作作業について積極的に学び、理解することができる	応用工作作業について学び、理解することができる	応用工作作業について理解できない	応用工作作業について理解する姿勢がない				
到達目標 C	測定・調整作業について積極的に学び、発展的な解釈ができる	測定・調整作業について積極的に学び、理解することができる	測定・調整作業について学び、理解することができる	測定・調整作業について理解できない	測定・調整作業について理解する姿勢がない				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 適時レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料などは、授業中に指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験を総合的に評価（100%）									
演習のいずれかを記入。									

科目名		応用測定工作実習			年度	2024
英語表記		Applied Measurement Work Practice			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	応用測定	測定機器の応用的な作業を理解する	1 ホイールアライメント	各項目の理解	2	
			2 シャンダイナモ	各項目の理解		
2	応用工作	工作機器の応用的な作業を理解する	1 金属切断	各項目の理解	2	
			2 旋盤加工	各項目の理解		
			3 金属加工	各項目の理解		
3	測定・調整	自動車の応用的な測定・調整方法を理解する	1 測定作業	各項目の理解	2	
			2 調整作業	各項目の理解		
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等